

The logo consists of the word "SOSHIN" in a bold, sans-serif font, enclosed within a horizontal oval border.

SOSHIN

2019

社会・環境レポート

Save
The
Earth

双信電機株式会社
SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

双信パワーテック株式会社

双信デバイス株式会社

立信電子株式会社

SOSHIN ELECTRONICS(M)SDN. BHD

事業概要

2019 社会・環境レポート

目次

■事業概要ほか

会社概要・事業拠点・財務ハイライト	1
事業領域と関連製品	2
社長メッセージ・コーポレートガバナンス	3
双信電機グループ企業行動指針	4

■社会性報告

CSR活動について（SDGs：持続可能な開発目標への対応、生物多様性の概要）	5～6
人間性の尊重、 快適な職場環境の確保	7
地域社会との協調、 社会貢献活動の推進	8

■環境報告

環境マネジメントシステム	9
環境保全活動の概要	10
環境会計	11
物質収支・含有化学物質管理	12
環境負荷低減活動への取り組み	13
省エネ対策事例	14
資源活用への取り組み	15
アンケート	16

編集方針

このレポートは双信電機グループの社会・環境にかかわる取り組みを報告しています。

【対象期間】

2018年4月～2019年3月

【対象範囲】

双信電機株式会社
双信パワーテック株式会社
双信デバイス株式会社
立信電子株式会社
双信エレクトロニクスマレーシア
2019年7月発行

■会社概要（2019年3月末現在）

社名：双信電機株式会社
英文名 SOSHIN ELECTRIC CO.,LTD.
URL <http://www.soshin.co.jp>

東京本社 〒105-0023
東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F
Tel.03-5730-4500 Fax.03-5730-4504

創業：1938年（昭和13年）12月
設立：1944年（昭和19年）4月
資本金：3,806百万円（2019年3月末現在）
従業員数：802名（2019年3月末現在）

■事業拠点

【国内営業拠点】

東京本部
大阪営業所 / 名古屋営業所 / 九州営業所

【国内製造・技術拠点】

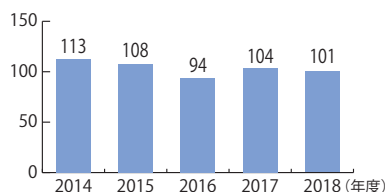
浅間工場、千曲技術センター

【グループ会社】

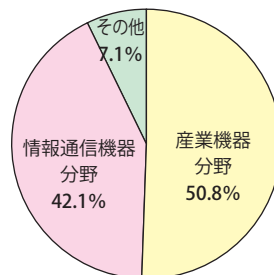
双信パワーテック株式会社
双信デバイス株式会社
立信電子株式会社
双信エレクトロニクスマレーシア
双信エレクトロニクス・オブ・アメリカ
双信エレクトロニクスヨーロッパ
双信華科技（深圳）有限公司
台湾双信電機股份有限公司

■財務ハイライト

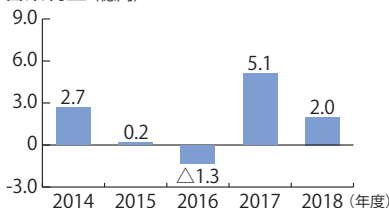
■売上高（億円）



■市場別売上高比率（2018年度）



■営業利益（億円）



事業領域と関連製品

双信電機グループは産業機器分野と情報通信機器分野で、時代のニーズとお客様の期待に応え、環境負荷に配慮し小型・高性能・廃棄の少ない製品づくりを行い、低炭素社会の実現に貢献しています。

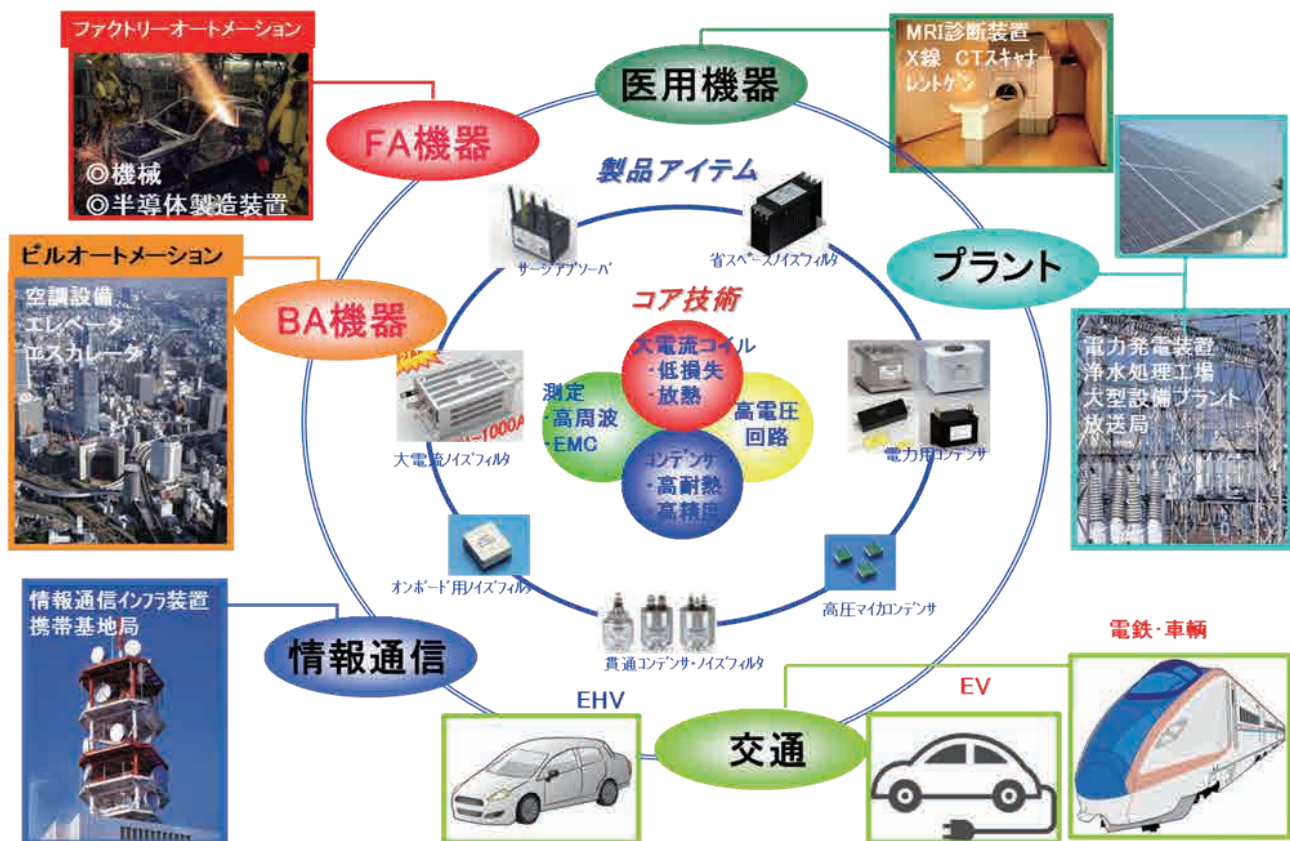
【産業機器分野】

・ノイズ関連

半導体製造装置や工作機械などの産業分野、空調エレベーターなど暮らしを支える設備、地球環境への負荷低減が期待される省エネ設備でノイズ障害対策のニーズが高まっています。当社の EMC 製品はこれらの装置・設備から発生するノイズ問題を解決し、多くの分野で活躍しています。また、大型電波暗室やオンサイト（指定場所）によるノイズ測定・診断など、トータルのサポートでお客様のニーズにお応えしています。

・カーエレクトロニクス、鉄道

高い信頼性が要求される自動車関連に、ノイズフィルタ、コンデンサなどが使用されています。また、鉄道車両や鉄道運行管理システムでは各種フィルタやコンデンサが安全安心を支えています。



【情報通信機器分野】

・情報通信インフラ

カプラなどの高周波部品やフィルタ、コンデンサが携帯電話基地局などの情報通信機器市場のインフラ設備を支えています。

・情報通信端末

進化し続けるスマートフォンやタブレット端末の無線 LAN やブルートゥース通信モジュールなどに積層誘電体フィルタが採用されています。



社長メッセージ



代表取締役社長
上 岡 崇

双信電機グループは企業価値の向上を図り、社会に必要とされる企業として存続し続けることを重要な課題の一つとして位置付けています。

社会に必要とされる製品を供給し続けることだけでなく、社会が持続的に存続するための企業の役割を認識し行動することが重要だと考えます。そのための国際目標であるSDGs(持続可能な開発目標への対応) 17項目のうち双信電機グループが対応し得る5項目について活動を続けています。環境を保護し自然環境の変動への対応、働きがいのある職場環境づくり、生産品に対する信頼性の向上等を主な目的としています。

CO₂ 排出量や廃棄物の削減を中心とする環境負荷低減の活動の他、人間性の尊重や快適な職場環境の確保を目指し、差別やハラスメントの撲滅に取り組んでいます。また、社会で頻発している製品の品質に対する信頼の失墜に対しては、改めてグループ内の実態を調査し、品質コンプライアンス違反発生の未然防止に努めています。

また拠点ごとの地域への貢献として、ボランティア活動やスポーツ行事の主催等を通じて地域の皆さまとの交流を深めています。

これらの行動の基本となっておりますのは、グループ創業者が定めた社是である「誠実」です。何事にも真心を持って誠実に取り組むことを行動規範として企業活動を進めてまいります。

双信電機は1938年の創業から昨年(2022年)の12月7日で80周年を迎えることができました。これまで双信電機グループに関係しご支援いただいた皆さまに感謝申し上げますとともに、今後も90周年、100周年がグループの成長とともに迎えられるよう社員一同努力してまいります。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

◆コーポレートガバナンス

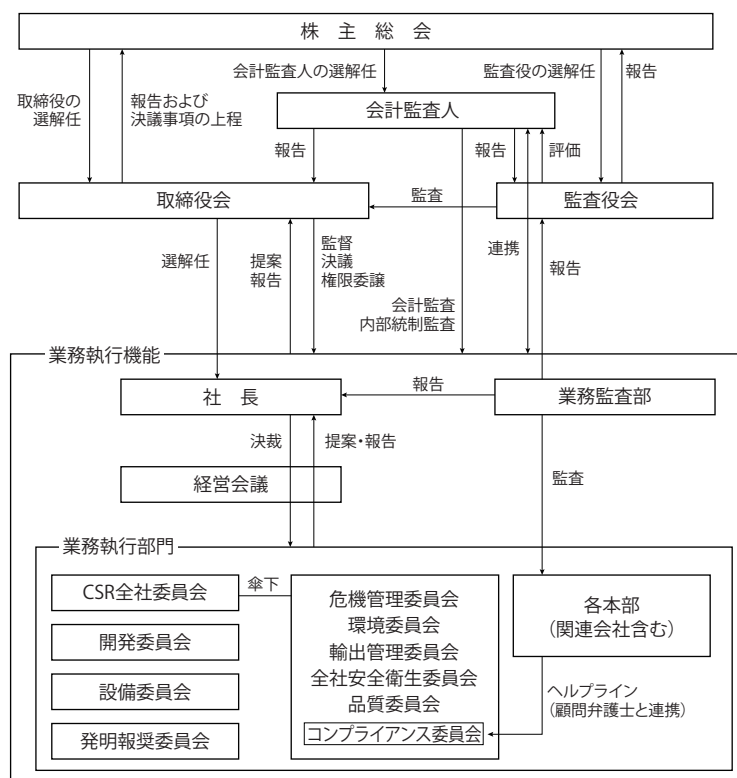
双信電機グループは、企業価値の向上を図ることを経営上の重要な課題の一つと位置付けています。

コーポレート・ガバナンスの強化は、事業活動の適法性と経営の透明性を高め、会社に関わる全てのステークホルダー(株主、顧客、従業員、取引先、地域社会)から信頼される企業となることに繋がり、企業価値の向上に資する重要な施策と考えております。

その実現に向け、経営組織体制の整備、経営効率の向上、経営監視機能の強化といった取締役会、監査役会等の責務を明確にし、法令順守の徹底に努めております。

また、株主の権利、平等性の確保と対話の促進により、相互に信頼できる関係を築きます。

ガバナンス体制





I. 企業理念の実現

1 より良い社会環境に資する商品の提供

長期のグローバルな視点に立ち、地球環境を守り社会の安全・安心を実現する商品やサービスの提供を通じて、新しい価値の創造に取り組みます。

品質と安全性の追求により、お客さまと社会からの信頼を獲得します。

II. 企業活動のあり方

2 企業情報の開示

経営の透明性を高め、日本ガイシグループに対する社会の信頼を得るために、経営情報、財務情報、商品・サービスに関する情報など、広く社会が求める情報を正確かつタイムリーに発信します。

3 コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント

各国、地域の法令やルールを守り、国際間の取決めに尊重して、コンプライアンスを徹底します。

誠実で高い倫理観のある人材を育成します。また、内部統制システムの構築とリスクマネジメントの実践を通じて、会社の資産や信用、第三者の権利を守ります。

4 人間性の尊重、快適な職場環境の確保

人材の採用、処遇は公正・公平に行い、安全・快適で、家庭と両立する働き易い職場環境を提供します。

多様な人材が挑戦できる場と機会を設け、知識や技術の習得を通じて人材の成長を支援します。

職場におけるいじめ、差別、ハラスメントなど人権に反する行為の発生を防止し、違反行為があった場合には迅速に適切な対応をとります。

5 公正、自由、透明な取引の実践

対等な良きパートナーとして、取引先との共存共栄を目指し、公正、自由、透明な取引を行います。

また、日本ガイシグループのサプライチェーン全体で、企業の社会的責任を果たす取り組みを推進します。

III. 社会の一員として

6 地球環境の保全

事業活動を行うすべての拠点、すべてのプロセスで、率先して環境負荷の低減に取り組み、地球環境の保全に貢献します。地域の環境保全活動に協力し、従業員の取り組む活動も積極的に支援していきます。

7 地域社会との協調、社会貢献活動の推進

各国、地域の社会的課題に関心をもち、地域に信頼される企業市民であることを目指して、地域のニーズに応じた社会貢献活動に積極的に取り組みます。

8 ステークホルダーとのコミュニケーション

お客さま、取引先、株主、従業員、地域社会の方々など、すべてのステークホルダーとの対話を通じて、日本ガイシグループへの理解を広げるとともに、寄せられた意見に基づいて会社の活動をレビューし、社会的責任を果たすための取り組みに活かしていきます。

社会性報告

C SR 活動について

◆ SDGs：持続可能な開発目標への対応

双信電機グループは、国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」を指標に、事業活動を通じて幅広く社会における課題の解決に貢献することが、重要な社会的責任であると考えます。

双信電機グループが対応し得る5項目について、提供価値を具体化し活動を行っています。

会社の成長と共に、貢献できる項目を増やして行くことで、経済成長に寄与できる様に活動して参ります。

	関連する内容	双信電機グループの提供価値
 8 働きがいも 経済成長も	人間性の尊重、快適な職場環境の確保	雇用・採用を適切に行い、個性と多様性を尊重することで、従業員の働き甲斐のある安全な職場を提供し、経済成長に寄与します。
 11 住み続けられる まちづくりを	地域社会との協調、社会貢献活動の推進	地域社会との共存をはかり、持続可能な都市および人々の居住環境の実現に寄与します。
 12 つくる責任 つかう責任	物質収支（インプット／アウトプット） 含有化学物質の管理	事業活動に必要なエネルギーや化学物質・水等を効率的に利用し、アウトプットの削減を行います。
 13 気候変動に 具体的な対策を	環境保全活動 環境負荷低減活動への取り組み	環境目標を設定し、CO2 排出量・廃棄物の削減、含有化学物質の管理強化、環境に関する苦情・事故を起こさない様に取り組み、環境保全と環境負荷の低減に寄与します。
 15 陸の豊かさも 守ろう	資源活用の取り組み	3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進、資源循環によりゼロエミッションを達成することで、間接的に森林保護・砂漠化対策・生物多様性損失阻止に寄与しています。

C SR 活動について

◆生物多様性の概要

双信電機グループでは、2018 年度から、環境省が推奨している、“環境活動への参加を自己宣言する”取組みに参加しています。「たべる・ふれる・つたえる・まもる・えらぶ」の5つのコンセプトから、自分が出来る事を選んで実行することで、生物多様性保全に繋げて行く内容となっています。

双信電機グループで働く全従業員を対象に参加を募集し、参加率は 98% でした。

MY 行動宣言 生物多様性を守るために、私たちにできる5つのアクション！

Act 1		地元でとれたものを食べ、旬のものを 味わいます 。
Act 2		自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然生きものに ふれます 。
Act 3		自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで 伝えます 。
Act 4		生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に 参加します 。
Act 5		エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで 買います 。

双信電機グループは、軽井沢にある NPO 法人ピッキオの野生動物と人との共存を目指した地域生態系保全活動に賛同し、その活動を支援しています。



社会性報告

人 間性の尊重、快適な職場環境の確保 ●

◆雇用・採用に関する基本方針

双信電機グループでは事業の中長期成長を見据えた人員計画を立て、雇用の安定に努めています。新卒の計画的採用を行うと共に、社内ローテーションを積極的に展開し、必要な能力・経験を持った人材の適正配置を進め、従業員の働き甲斐、働き易さを意識した活動を推進しています。

◆個性と多様性の尊重

障害者雇用については法定雇用率 2.2% に対し 2.92% (2018 年実績) となっています。また、定年退職後の再雇用制度を導入し、フルタイム、パートタイムなど個人のセカンドライフプランに合わせた柔軟な勤務形態を用意しました。

◆安全衛生

双信電機グループでは、従業員の安全及び健康を確保し、快適な作業環境の形成を促進すると共に、業務災害ゼロを目指して安全衛生活動を積極的に展開しています。

主な活動として、グループ会社間での相互パトロールによる隠れた危険要因の顕在化、ヒヤリハット活動を通じた従業員からの提案による改善に注力しております。また、全国労働衛生週間では、ストレスチェックを実施し、拠点別、年度別の変化を分析、産業保健活動に繋げる事で、心身の健康増進を図り、社内の安全・衛生の更なる向上に活かしております。

今年度は、更なる安全衛生の質の向上を目的に、ISO45001 認証取得を目指し社内教育・リスクアセスメント等の活動を行い、安全・快適職場の維持向上に向け活動を推進して参ります。

◆こころの健康づくり

双信電機グループではメンタル不調に関する知識習得、セルフケア、ラインケアなどについて研修会などを実施し、産業医、顧問医、保健師、カウンセラー、産業保健スタッフが一致団結してこころの健康づくりに取り組んでいます。

また、長時間労働対策に関して、管理職への教育、残業時間の管理、定時退社日の徹底などを実施しています。

◆ワークライフバランスの実現

女性社員の多くが産前産後休暇や育児休暇制度を利用し、仕事と育児の両立を果たしています。

このほか、リフレッシュ休暇制度や計画有給取得制度を活用し、心身のリフレッシュを図れる制度を整えています。



安全衛生社内教育

地域社会との協調、社会貢献活動の推進

国際ボランティアデー 社会貢献一斉アクション

東京本社が入居するビル内の企業が共同しフェアトレード商品の販売を行ない、開発途上国の生産者支援に参加しました。

※フェアトレードとは、適正価格で商品を購入することで、生産者の生活を支援する仕組みです。



山之口地区あいさつ運動への参加

双信パワーテック(株)にて、山之口地区まちづくり協議会が「人と人 えがおでつなぐ 山之口」を掲げ「豊かな心と文化のまち」をめざして、町内小中学校と連携して活動を実施している、あいさつ運動への参加を行った。



JR 佐久平駅にウェルカムフラワー設置

佐久市の玄関口佐久平駅に、佐久平総合技術高校と佐久平浅間小学校の4年生30名と協力して「ウェルカムフラワー」を設置しました。



双信電機杯スポーツ大会による 地域との交流

第18回双信カップテニストーナメント
全種目合わせて67組、134名と大勢の方に参加いただきました。今年は雨続きの天候でしたが大会当日は奇跡的な晴天に恵まれ、各ペアが熱戦を繰り広げました。



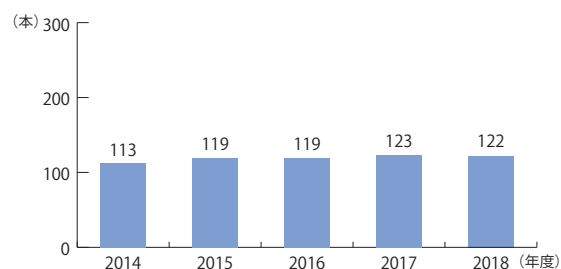
クリスマスプレゼント

双信パワーテック(株)および双信デバイス(株)にてそれぞれ近隣の保育園にクリスマスプレゼントを贈りました。



エコキャップ運動

回収したエコキャップは、再生プラスチック原料として換金し、様々な社会貢献活動にあてられています。2018年度はワクチン換算で122本でした。



環境報告

環境マネジメントシステム

環境方針

1. 法令・協定・顧客との取り決めおよび自主基準を順守する。
2. 環境目標を設定し、組織的・継続的な環境負荷低減活動を地域社会とともに推進する。
3. 環境に配慮した製品の開発・設計・製造販売を行う。
4. 環境汚染の予防処置と監視を行う。
5. 教育・啓発活動を進め、従業員および事業に関わる人々すべての役割・責任についての自覚高揚を図る。

◆環境保全活動の推進体制

環境保全に関する双信電機グループの方針・施策は、環境管理担当役員を委員長とする「環境委員会」で決定します。ここで決定した方針・施策は、各サイトの拠点長、環境管理責任者を通じて全社に展開されます。

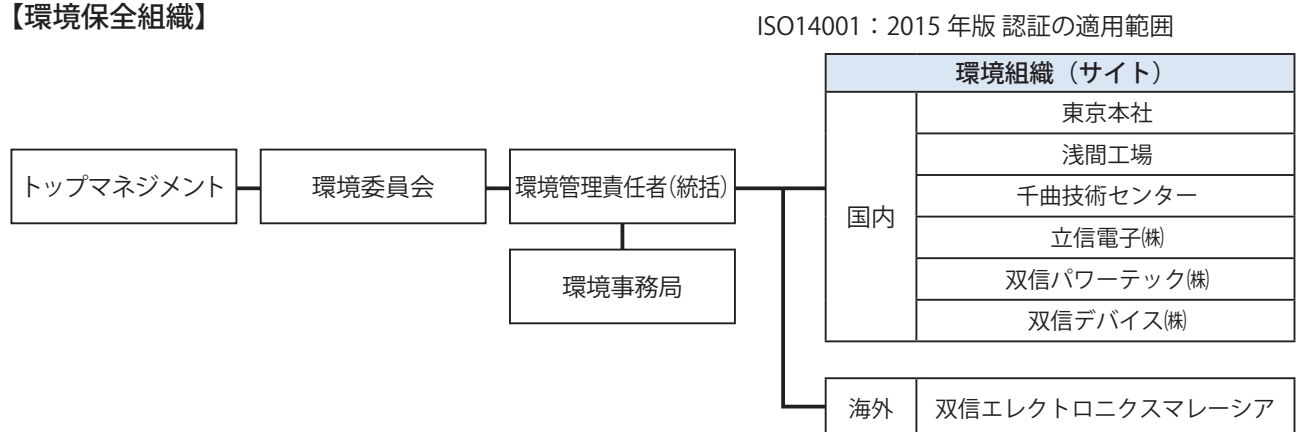
環境組織の活動として、半期ごとに開催される環境委員会の他、環境会議を毎月開催し、CO2排出量や産業廃棄物排出量などの目標の進捗管理のほか環境に関する情報交換などを行い、環境保全活動を継続的に推進しています。

◆ISO14001 認証・環境監査

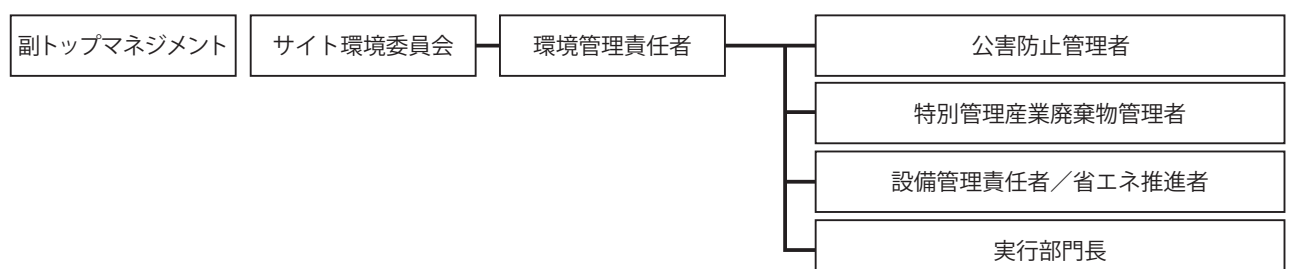
双信電機グループは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001：2015年版の認証を取得しています。

環境監査は認証機関による外部監査、環境管理部による環境査察、実行部門が行う内部環境監査を実施しています（内部環境監査員218名）。

【環境保全組織】



【各サイト環境保全組織】



環境保全活動の概要

双信電機グループの環境活動は、環境目的とそれを達成するための環境目標を設定し、自主的な環境保全に努めています。

◆ 2018 年度活動報告および 2019 年度目標

【CO₂ 排出量】

2018 年度の環境負荷低減活動としての CO₂ 排出量は、目標を達成しました。

2019 年度は CO₂ 排出削減の取り組みとして、2018 年度に引き続き、照明の LED 化を含む省電力設備への段階的な変更を実施します。

生産性向上、設備稼働ロス・負荷低減、省エネパトロールによる無駄の排除につきましても、継続して実施していきます。

【産業廃棄物排出量】

2017 年度は産業機器関連製品の金属加工ライン
2018 年度の産業廃棄物排出量は、目標を達成しました。

2019 年度は、原材料の収率向上をはかり、廃棄物排出量の削減を実施していきます。

【含有化学物質の管理強化】

RoHS 指令におけるフタル酸エステル類規制への対応や、REACH 規則においても管理対象物質が年々追加されており、製品に使用する物質への制限・管理が厳しくなっています。

双信電機グリーン調達ガイドラインに基づき、最新の規制情報にあわせた管理を実施しています。また、製品構成部材の含有化学物質管理を目的に、仕入先の環境品質調査を実施し、グリーン調達活動を進めています。

【環境に関する苦情・事故の有無】

2018 年度は環境に関する苦情・事故は発生していません。2019 年度も苦情・事故が発生しないように、環境保全に向けた活動を継続していきます。

◆ 主な環境保全活動

項 目	2018 年度実績			2019 年度目標
	目標	実績	自己評価	
環境 マネジメント システム (ISO14001)	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育と啓蒙活動を継続します。 環境マネジメントシステム 2015 年版の運用を確実に、各部門・内部環境監査員のレベルアップをはかります。 環境法規制を順守します。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の周知、環境目標などの環境教育を実施しました。 環境マネジメントシステム 2015 年版による認証維持審査を受審、運用に問題が無いことを確認出来ました。また、内部環境監査員の教育を実施し、監査員の増員と共に、レベルアップをはかりました。 環境法規制は順守継続できました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育と啓蒙活動を継続します。 環境マネジメントシステム 2015 年版の運用を確実に、各部門・内部環境監査員のレベルアップをはかり、ISO45001 のマネジメントシステムとの部分的統合、外部審査における統合審査に向けて準備を行います。 安全衛生を含む法規制の順守を継続します。
地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量を 7,136t 以下にします。 (CO₂ 原単位排出量を 75.1t / 億円以下にします。) 	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量は、目標値 7,136t に対し、6,831t であり、目標値を達成する事ができました。 (CO₂ 原単位排出量については、生産量の変動に伴い、80.3t / 億円と目標を達成できませんでした。) 	△	<ul style="list-style-type: none"> 国内の CO₂ 排出量を 6,997t 以下にします。 (CO₂ 原単位排出量を 76.9t / 億円以下にします。)
廃棄物管理活動	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量を 258t 以下にします。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量は、目標 258t に対し、258t となり、目標値を達成する事ができました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量を 293t 以下にします。
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光 X 線分析装置により、海外調達品の受入検査を継続、仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達ガイドラインを順守します。 	<ul style="list-style-type: none"> 検査対象の受入部材の検査を実施し、異常は発生していません。仕入先環境品質調査を計画通り実施し、グリーン調達を推進しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光 X 線分析装置により、海外調達品の受入検査を継続、仕入先環境品質調査を実施し、グリーン調達ガイドラインを順守します。
有害化学物質の削減	<ul style="list-style-type: none"> PCB / 鉛を含む有害物質の削減を更に実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 低濃度 PCB 機器を 3 台廃棄処理しました。・RoHS2 規制に伴うフタル酸の使用禁止に向けたフォローを行いました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> RoHS 規制の次の使用制限予定物質に対して、社内での使用確認を含む調査を行います。

環境報告

環境会計

◆環境保全コスト、環境保全対策にともなう経済効果

双信電機グループは、環境保全目的として支出した金額を投資額と費用でとらえ、その効果を定量的に把握するため、環境会計を実施しています。

双信電機グループにおける 2018 年度地球環境保全コストにおいて、LED 照明の導入等の省エネルギー型設備への入替を行い、計 6,308 万円の投資額となりました。（投資効果確認は来年度以降実施）

環境保全活動を効率的に実施したことにより、費用は、計 1,947 万円と前年度より 419 万円の減額となりました。

2018 年度単年の経済効果は 89 万円となりました。

実績集計：2018 年度（2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）※環境省環境会計ガイドラインに沿って作成しております。

単位：万円

分 類	内 容	環境保全コスト				経済効果	
		投資額		費用額			
		2017年度	2018年度	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
公 害 防 止	公害防止のために必要なコスト	0	0	174	151	—	—
地 球 環 境 保 全	省エネ設備導入等 CO2 削減のために必要なコスト	2,604	6,308	144	77	529	89
資 源 循 環	節水等資源効率利用、廃棄物の削減・リサイクル・処理・処分するために必要なコスト	0	0	988	999	4,995	0
上 ・ 下 流	事業活動に伴う上流下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	0	0	0	0	—	—
管 理 活 動	ISO14001 認証取得・維持、環境教育、環境負荷の監視測定等環境保全に必要なコスト	0	0	771	499	—	—
研 究 開 発	環境負荷削減の研究開発・企画設計、環境保全に資する製品開発・研究に必要なコスト	0	0	0	0	—	—
社 会 活 動	自然保護、緑化、地域の環境支援、環境情報の公表、環境広告に必要なコスト	0	0	289	220	—	—
環 境 損 傷	土壌汚染による改良、自然破壊修復等に必要なコスト	0	0	0	0	—	—
合 計		2,604	6,308	2,366	1,947	5,524	89

※資源循環の経済効果については 2018 年度より集計方法を変更しております。

物質収支(インプット - アウトプット)

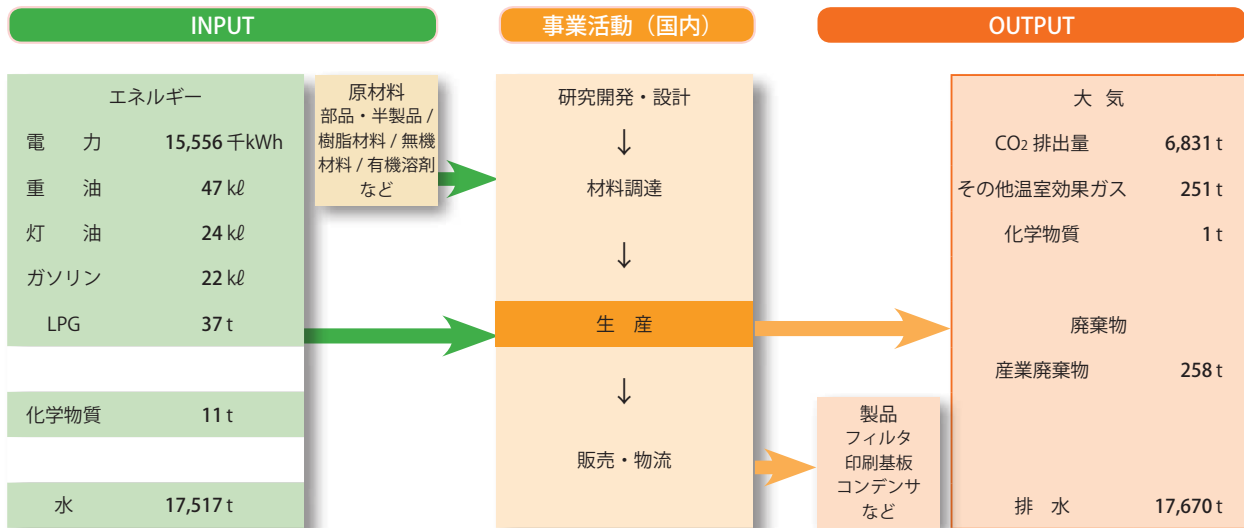
双信電機グループの国内における事業活動に関して、2018 年度 1 年間でインプットされた資源・エネルギーと生産された製品、廃棄物及びその他の排出物（アウトプット）を示します。

インプット・アウトプットの概要

インプットは、事業活動に必要な部品、原材料、エネルギー、化学物質、水などによって構成されます。

アウトプットとしては、製品生産活動にともなう CO₂ 排出、排水、廃棄物などがあります。

双信電機グループでは製品以外のアウトプットを削減するため、省エネ改善や原材料の収率改善によりインプットを極力削減する活動を行っています。



含有化学物質管理

◆含有化学物質調査

得意先からの製品含有化学物質調査依頼に対し迅速に対応できるように、また、ライフサイクルの視点で、部品選定の段階から含有化学物質の使用有無の調査に取り組んでいます。

◆グリーン調達

環境負荷の少ない部品・材料の調達を進めており、仕入先への環境品質調査を実施し、化学物質管理に問題が無いことを確認しています。

「双信電機グループ グリーン調達ガイドライン」に基づいて、仕入先に積極的な取り組みのご協力をお願いしています。

◆蛍光 X 線分析

禁止物質を含有する恐れのある部品・材料については、蛍光 X 線分析装置によるスクリーニング検査を実施し、非含有であることを確認しています。

環境報告

環境負荷低減活動の取り組み

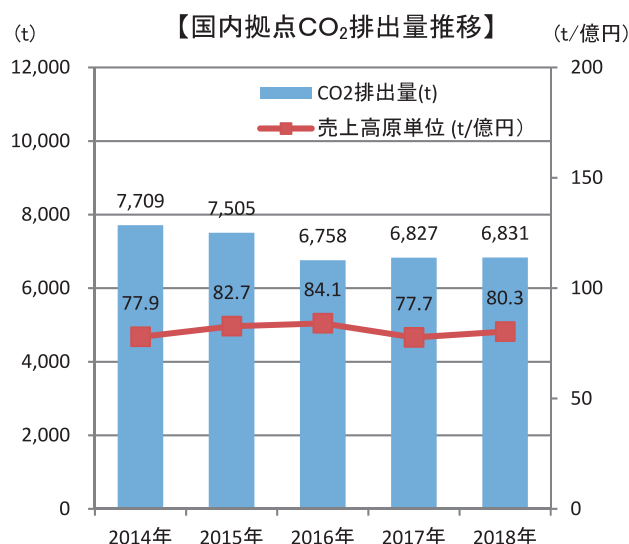
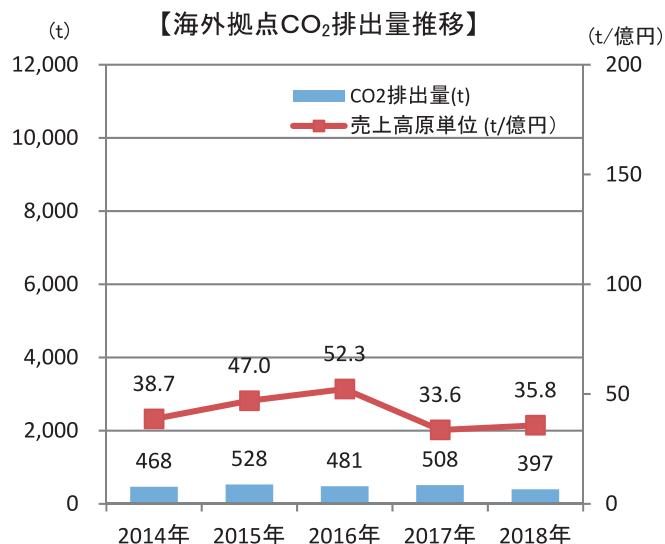
地球温暖化防止への対応として、省エネ等 CO₂ 排出量削減に取り組んでいます。

2018年度の国内のCO₂排出量は、ノイズ関連部品・厚膜印刷基板などの売上増加により、6,831t、売上高原単位は、80.3t／億円となりました。

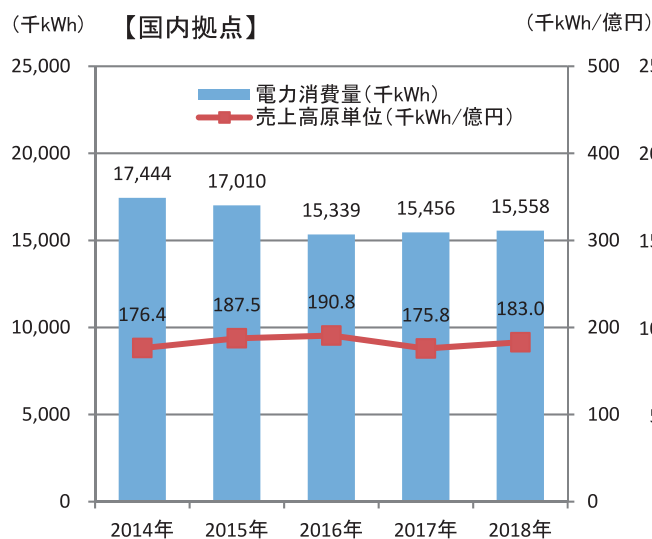
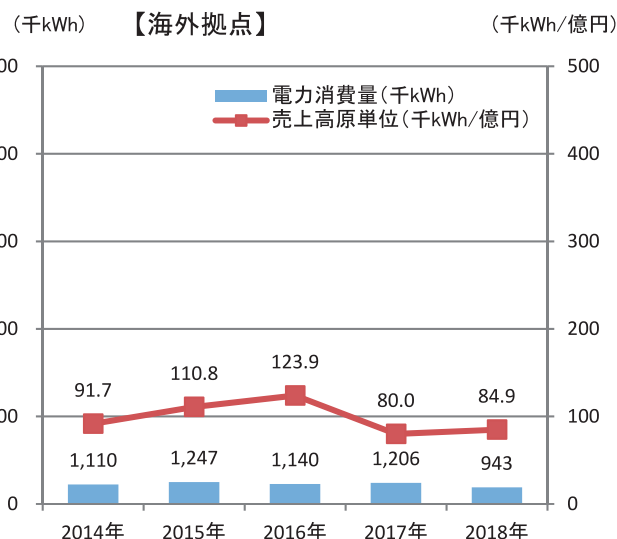
2018年度の海外拠点でのCO₂排出量は397t、売上高原単位は、35.8t／億円となりました。

2019年度のCO₂排出量は、6,997t以下（売上高原単位 76.9t／億円）を目標にします。

◆ CO₂ 排出量



【参考：電力消費量推移】



省 エネ対策事例 ●

(1) 双信デバイス 照明のLED化

双信デバイスの照明を蛍光灯からLEDに変更しました。(CO₂を年間約52.9%削減)

変更前



変更後



(2) 千曲技術センター・浅間工場 ガスヒートポンプ式エアコンの入替え

千曲技術センター及び浅間工場の電気式パッケージエアコンと重油ボイラを、高効率のガスヒートポンプ式エアコンに入替えました。(CO₂を年間約51%削減)

変更前

電気式パッケージエアコン

(千曲技術センター 2F)



変更後

ガスヒートポンプ式エアコン

(千曲技術センター 2F)



(浅間工場旧館 2F)



(浅間テストラボ)



(浅間工場旧館 2F)



(浅間テストラボ)



A 重油ボイラ撤去



環境報告

資源活用の取り組み

双信電機グループは、環境保全のため、循環型社会の形成を重要視しています。グループ内の事業活動で排出される廃棄物を資源として捉え、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進しています。

2018年度総排出量 258t に対し、リユースが 162t、リサイクルが 96t で、ゼロエミッションを継続、2019年度は総排出量 293t 以下を目指します。

また、法に基づいた処理が適正に行われるように、行政に認可を受けた廃棄物処理業者とのみ委託契約を結び、マニフェスト（廃棄物管理表）の発行、処理記録を残しています。

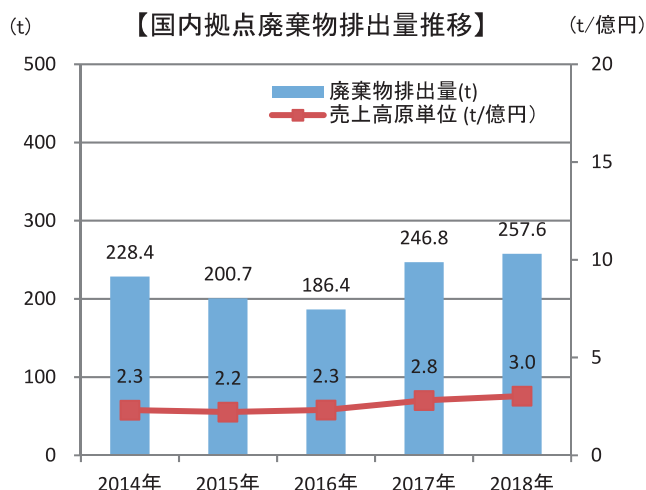
廃棄物処理業者については、処理現場の定期的現地視察を行い、処理に問題が無いことを確認しています。



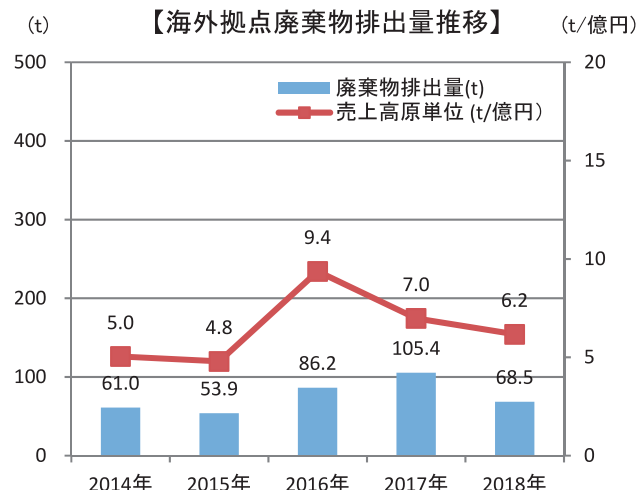
廃棄物処理委託業者現地視察

◆廃棄物排出量

【国内拠点廃棄物排出量推移】



【海外拠点廃棄物排出量推移】



TOPICS

◆海洋プラスチック問題について

2019年6月に、G20大阪サミットが開催され、長野県軽井沢町でも「持続可能な成長のためエネルギー転換と地球環境に関する閣僚会議」が開催されました。その中でも大きな問題として、“海洋プラスチック汚染”が課題として話し合われました。

レジのビニール袋の廃止等、プラスチックを出来るだけ使わない様に、世の中が少しずつ変わって行くことで、地球環境の保護に繋がって行きます。双信電機においても、3Rを進めたり、美化運動などの社会貢献活動への啓蒙行う事で、微力ではありますが、地球環境の保護に貢献できる様に努めて参ります。



「2019 社会・環境レポート」アンケート

双信電機グループの「2019 社会・環境レポート」をお読みいただき、ありがとうございます。
この報告書について、是非ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。
ご意見・ご感想は、今後の環境保全活動及び弊社レポート作成の参考にさせていただきます。

*以下の質問に該当する項目に☒を入れてください。

Q 1 弊社レポートをお読みにになった感想をお聞かせ下さい。

1) 全体の印象について

☐

良い

☐

ふつう

☐

悪い

2) わかりやすさについて

☐

良い

☐

ふつう

☐

悪い

3) 内容について

☐

良い

☐

ふつう

☐

悪い

Q 2 弊社レポートで特に興味を持たれた記事があればお聞かせ下さい。

(

) ページ

テーマ (

)

Q 3 環境保全活動や弊社レポートについてのご意見・ご感想をお願いします。

ご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。差支えなければ下欄にもご記入をお願いします。

*ご記入いただいた個人情報についてはアンケート記載の用途以外には使用致しません。

お名前：_____

男・女

年齢

歳

ご住所：_____

ご職業・勤務先：_____

お手数ですが下記あてに E-mail をいただければ幸いです。

送付先

双信電機株式会社 環境管理部宛

E-mail: environment@soshin.co.jp

Tel. 0267-67-4580



2019

社会・環境レポート



双信電機株式会社
SOSHIN ELECTRIC CO., LTD.

URL : <http://www.soshin.co.jp>

〒105-0023 東京都港区芝浦1丁目1番1号 浜松町ビルディング14F
Tel: 03-5730-4500 Fax: 03-5730-4504

この報告書の内容に関するご意見・お問い合わせ先
環境管理部
Tel: 0267-67-4580 Fax: 0267-68-4553
E-mail: environment@soshin.co.jp

